

社会学部メディア社会学科 4 年生中西菜摘さんの作品
『その妹～知的障害者を家族に持つということ～』が
「地方の時代」映像祭に入選

病気や障がいのある子どもの兄弟姉妹は「きょうだい児」といわれます。そうした人びとは、家族関係でさまざまな精神的な負担を感じて生活をつづけることがあり、それが「きょうだい児」問題ともよばれます。中西さんはこれをテーマに、知的障がいのある姉とその妹をめぐる作品『その妹～知的障害者を家族に持つということ～』を制作しました。



作品では、中年期になった姉妹の今の日常の映像と、抑制の効いた中西さん自身のナレーションがしなやかに流れていきます。その 17 分の時間が、この姉妹の半生となった「きょうだい児」問題を鮮やかに描き出します。

「地方の時代」映像祭は 1980 年に始まり、今年で 33 回を迎える歴史のある映像コンクールです。毎年、全国各地の放送局、自治体、市民、学生から優れた映像作品が数多く寄せられてきました。現在では、それは 3000 を越えています。「地方の時代」映像祭のホームページは、つぎのように述べています。<http://regionalism.jp/outline/about.html>。

その作品群は、「小さな民が歴史を作るといふ歴史観を展開してきた」（1987 年映像祭基調講演・鶴見和子氏）。「小さな民」とは地域の普通の人々であり、あるいは障害や差別によって社会的弱者の立場を余儀なくされた人々である。映像は、そうした人々の営みを、人々の表情やしぐさ、あるいは風景の風や匂いを含め、伝えてくれる。映像で地域を記録することの意味がそこにある。

これにふさわしい一作であるからこそ、中西さんの作品が入選したといえるでしょう。<http://regionalism.jp/work/2013.html>

11 月 16 日（土）～22 日（金）に関西大学で開催される今年の映像祭では初日の 16 日に、放送局部門、ケーブルテレビ部門、市民・学生・自治体部門、高校生部門を含めた入選作のなかからグランプリが発表



され、各部門の優秀賞、選奨、奨励賞も発表されます。また、17 日には各部門のワークショップが開催され、期間中は受賞作品などが上映されます。

<http://regionalism.jp/guide/index.html>